

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「いのちのメッセージ」

黒部市立高志野中学校

1～3学年生徒273名、保護者3名
平成21年7月10日実施

【いのちの先生】

永井 出 先生

・社会福祉法人「くろべ工房」施設長

【授業の概要】

講演「発達の願いに寄り添う」

(内容) 相手を思いやり、自他のいのちと人権を尊重し合うことの大切さ



障害者の方々が一生懸命にパンの製造や販売をしたり、公園の清掃をしたりしていることを知り、社会参加をして頑張っておられることが分かりました。障害者の方々は、笑顔がすばらしく、ぼくも障害者の方々と交流して、その笑顔を実際に見たいと思いました。

(1年男子)



私は今、総合的な学習の時間に「知的障害のある方の生活」について調べようと考えていたので、今日の講演はとてもためになりました。笑顔でとても楽しそうに活動しておられる障害のある方を見て、心が温かくなりました。

(1年女子)

初めて、私たちの身近にある福祉の状況について知ることができました。障害者の方たちの顔は、とても生き生きしていて、働くことが本当に大切だと思っておられるのだと感じました。自分も少しでも障害者の方の発達の願いに寄り添えたらなと思いました。今日学習したことをいつも頭に置いて、今後も生活していきたいです。

(2年女子)

障害があっても、普通の人と同じように暮らしていくことのすばらしさを感じました。どの人も笑顔で、生きる喜びに溢れた様子が伝わってきました。障害があるからといって差別をしたり、偏見をもったりしてはいけません。私はどんな人とも気軽に話せて、困っている人を助けられるような人になりたいです。

(3年女子)

永井さんはすごい仕事をしておられるなと思いました。お年寄りの看病をすることは大変だと思うので、よくできるなと思いました。永井さんは「心のバリアフリーが大事です」と言われました。永井さんは、心が広く、どんな人に対しても同じ目線でしっかりと話そうとする意志をもっておられるからだと思いました。

(3年男子)